

農作物病害虫発生現況情報（5月） 水稻編

1 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病

- (1) 巡回調査では、発生施設率は39.4%（平成24.3%）で平成より高かったが、発生箱率は0.17%（平成0.39%）で平成よりやや低かった（表1）。
- (2) 腐敗症状苗20サンプルについて菌の分離を行った結果、もみ枯細菌病が15点、苗立枯細菌病が1点であった。なお、菌種の判別ができなかったものが4点あった。

2 苗立枯病

- (1) 巡回調査では、発生施設率は15.2%（平成31.6%）、発生箱率は0.07%（平成0.23%）で、ともに平成より低かった（表1）。
- (2) 関与菌は、ピシウム属菌（ムレ苗含む）であった。

3 ばか苗病

- (1) 県内広く発生が確認されたが、発生箱率は0.22%（平成0.57%）であり、平成よりやや低かった（表1）。

表1 育苗施設の病害発生状況（調査日：4月28日～5月11日）

単位：巡回調査施設数

調査地域	調査施設数	病害発生施設数			
		細菌病類	苗立枯病	ばか苗病	
県北部	3 (3)	1 (0)	0 (1)	2 (3)	
県中部	16 (16)	7 (4)	3 (7)	15 (14)	
県南部	11 (11)	4 (0)	2 (3)	10 (10)	
遠野・沿岸部	3 (4)	1 (0)	0 (2)	3 (4)	
合計	33 (34)	13 (4)	5 (13)	30 (31)	
発生施設率 (%)	R4	—	39.4 (12.1)	15.2 (39.4)	90.9 (97.0)
	平成	—	24.3	31.6	90.5
発生箱率 (%)	R4	—	0.17 (0.17)	0.07 (0.05)	0.22 (1.53)
	平成	—	0.39	0.23	0.57

※ () は令和3年の調査結果

※ 平成：H24-R3 10ヶ年

4 イネミズゾウムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第4半旬に成虫の侵入が確認された（田植日：5月19日）。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、成虫の発生圃場率は4.7%（平年3.6%）であり、平年並であった（図1）。

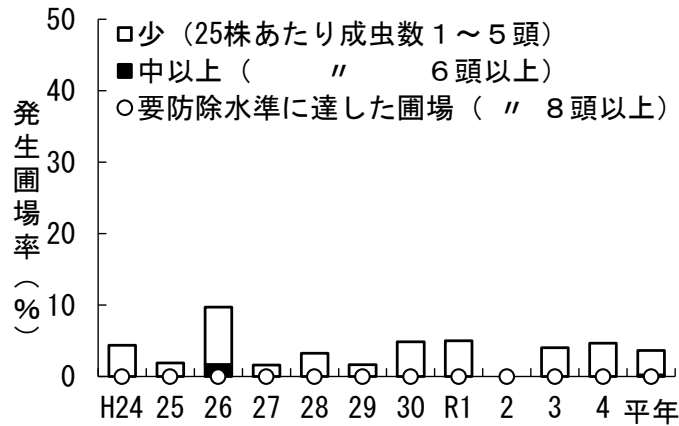


図1 イネミズゾウムシ成虫の発生圃場率の年次推移 (5月下旬)

5 イネドロオイムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第5半旬現在、成虫の侵入は確認されていない。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、平年同様、成虫の侵入は認められず、産卵も認められなかった。

6 イネミギワバエ

- (1) 5月下旬の巡回調査では、産卵がみられた圃場率は2.3%（平年19.6%）であり、平年より低かった（図2）。

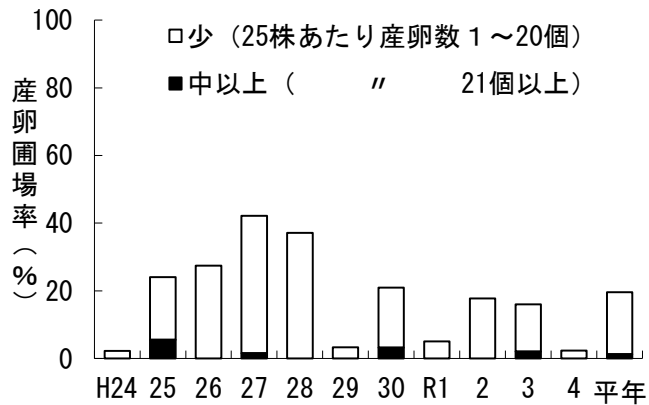


図2 イネミギワバエの産卵圃場率の年次推移 (5月下旬)

7 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、5月第2半旬に越冬世代幼虫、第5半旬にアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫が確認された。アカスジカスミカメ成虫の発生は確認されていない（表2）。

表2 基準圃場における斑点米カメムシ類すくい取り調査結果（北上市成田、往復20回振）

調査日	成虫 (頭数)		幼虫 (頭数)
	アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ	
5/2	0	0	0
5/6	0	0	2
5/12	0	0	12
5/17	0	0	22
5/23	0	17	5

農作物病害虫発生現況情報（5月） 麦 編

1 うどんこ病

(1) 5月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった (図1)。

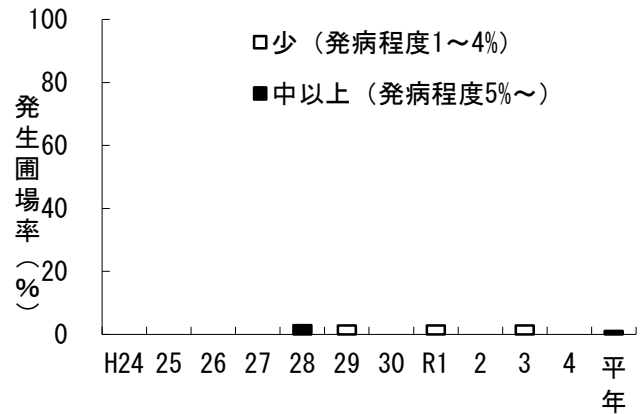


図1 うどんこ病の発生圃場率の年次推移 (5月中旬)

2 さび病類 (赤さび病)

(1) 5月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった (図2)。

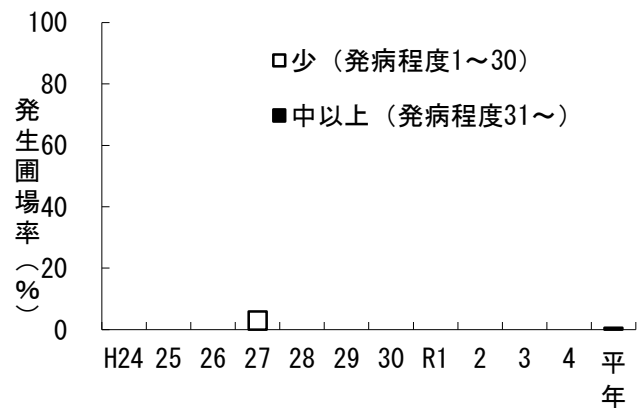


図2 さび病類 (赤さび病) の発生圃場率の年次推移 (5月中旬)

農作物病害虫発生現況情報（5月） りんご編

1 モニリア病

(1) 5月の巡回調査では、発生が確認されなかった（図1）。

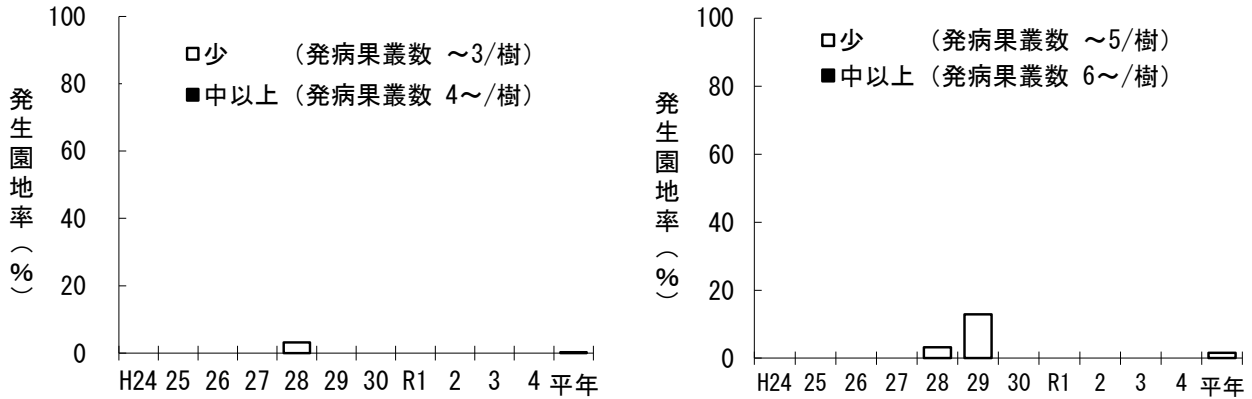


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移（左図：5月前半、右図：5月後半）

2 腐らん病

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は41.9%（平年41.6%）であり、平年並だった（図2）。

(2) 地域別では、県南部での発生程度中以上の園地率が18.2%（平年2.7%）であり、平年より高かった（図3）。

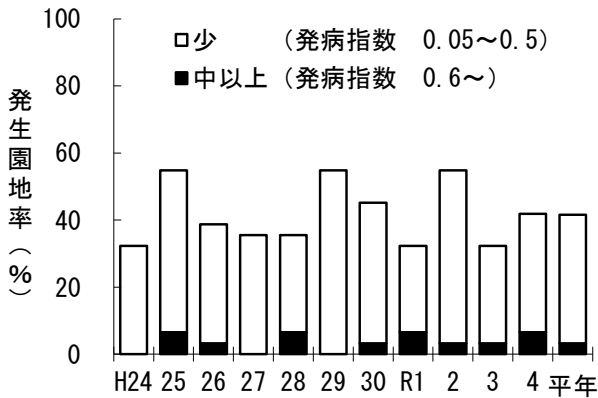


図2 腐らん病の発生園地率の年次推移（5月後半）

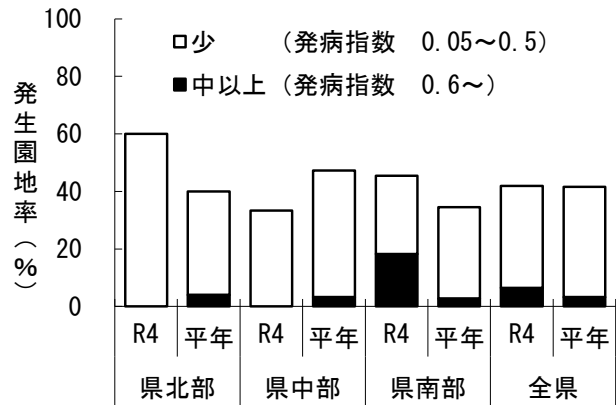


図3 腐らん病の地域別発生園地率（5月後半）

3 斑点落葉病

(1) 基準圃場（北上市・スターキングデリシャス）では、5月23日現在、発生が確認されていない（平年初発：6月第2半旬）。

(2) 5月後半の巡回調査では、ふじ、王林ともに発生が確認されなかった（図4）。

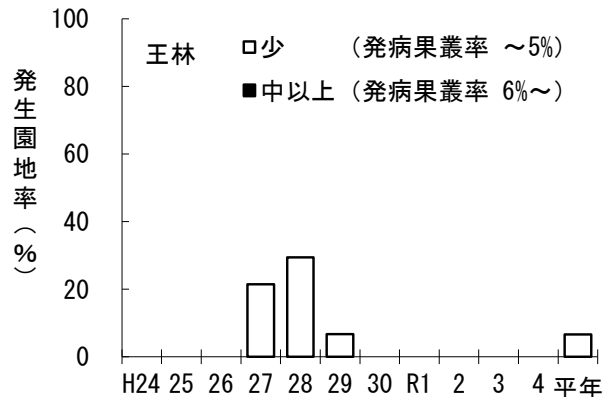


図4 斑点落葉病の発生園地率の年次推移（5月後半、果叢葉、王林）

4 黒星病

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は3.2%（平年1.0%）で、前年多発した一部園地で確認された（図5）。

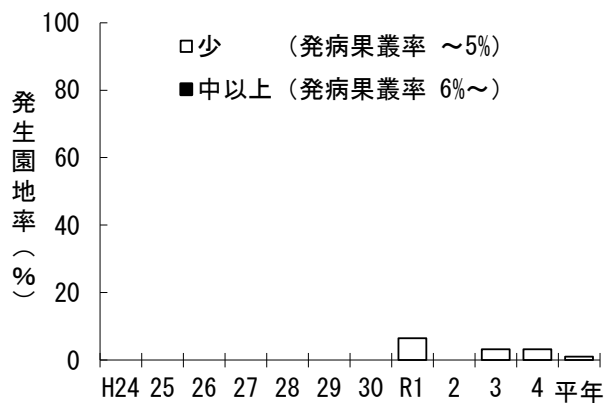


図5 黒星病の発生園地率の年次推移
（5月後半、果叢葉）

5 うどんこ病

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は3.2%（平年1.6%）であり、平年並だった（図6）。

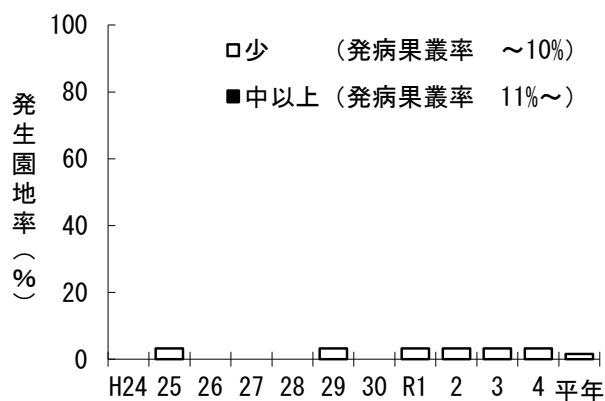


図6 うどんこ病の発生園地率の年次推移
（5月後半、果叢葉）

6 リンゴハダニ

(1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は9.7% (平年10.3%)、5月後半は19.4% (平年22.3%) で、ともに平年並だった。発生程度中以上の園地は、5月前半、5月後半ともに見られなかった (図7、8)。

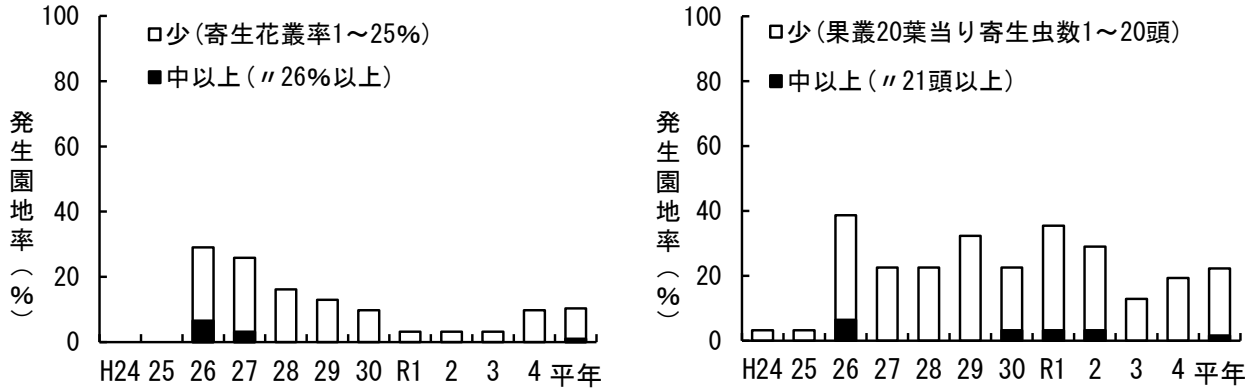


図7 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (左：5月前半、右：5月後半)

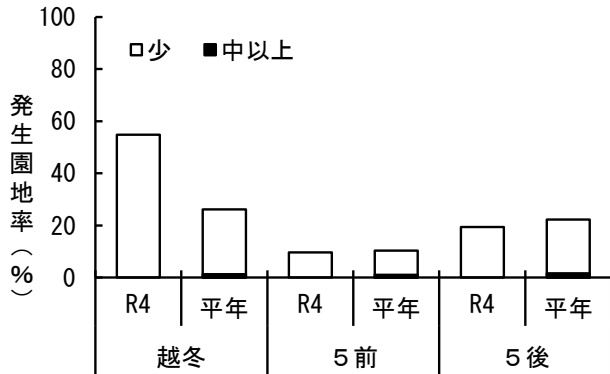


図8 リンゴハダニの時期別発生状況の推移

7 ナミハダニ

(1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は38.7% (平年25.5%) で平年よりやや高かったが、5月後半は16.1% (平年18.4%) で平年並だった。発生程度中以上の園地は、5月前半は見られず、5月後半は3.2% (平年9.4%) で平年より低かった (図9、10)。

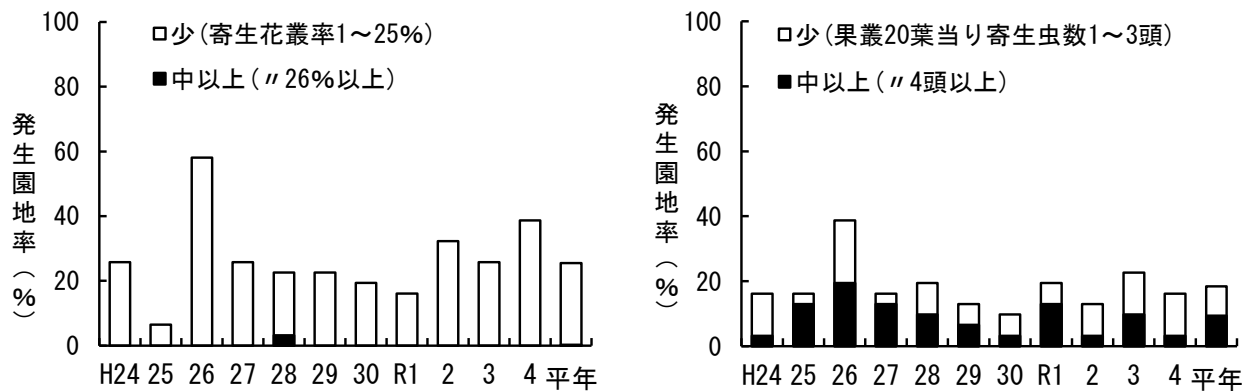


図9 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (左：5月前半、右：5月後半)

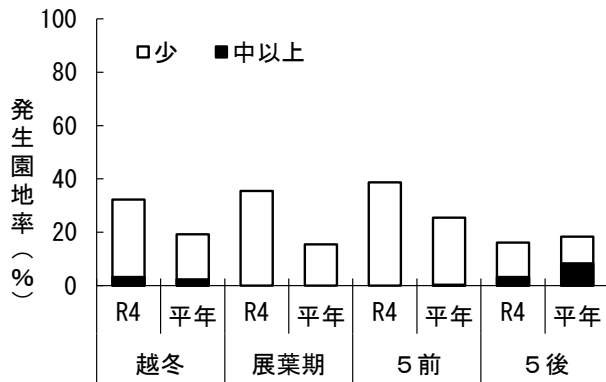


図10 ナミハダニの時期別発生状況の推移

8 ハマキムシ類

(1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は3.2% (平年16.5%)、5月後半は3.2% (平年14.5%) で、ともに平年より低かった (図11)。

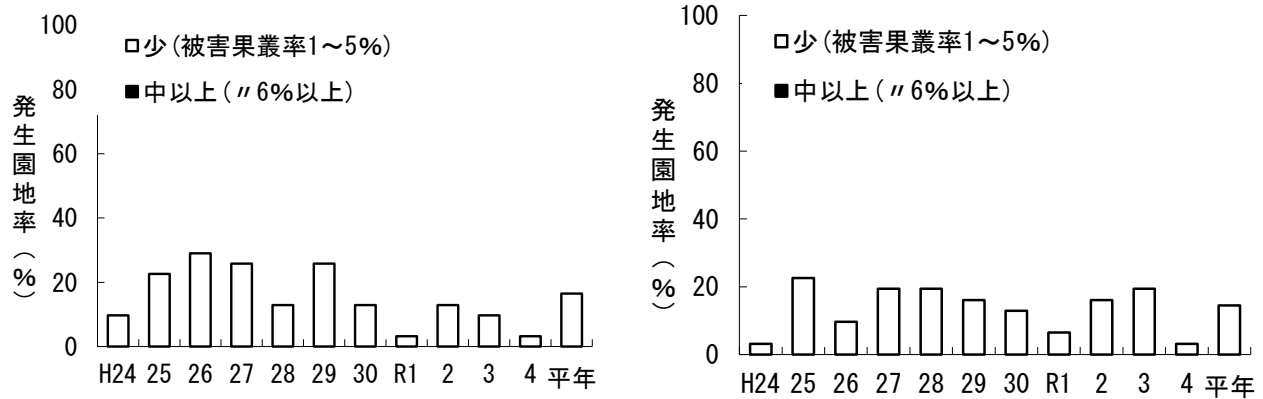


図11 ハマキムシ類の発生園地率の年次推移 (左: 5月前半、右: 5月後半)

9 ギンモンハモグリガ

(1) 5月後半の巡回調査での第1世代幼虫の発生園地率は0% (平年6.5%) であった (図12)。

10 アブラムシ類

(1) 5月前半の巡回調査での発生園地率は58.1% (平年46.6%) で、平年よりやや高かった (図13)。

(2) 発生が見られた種は、リンゴクビレアブラムシであった。

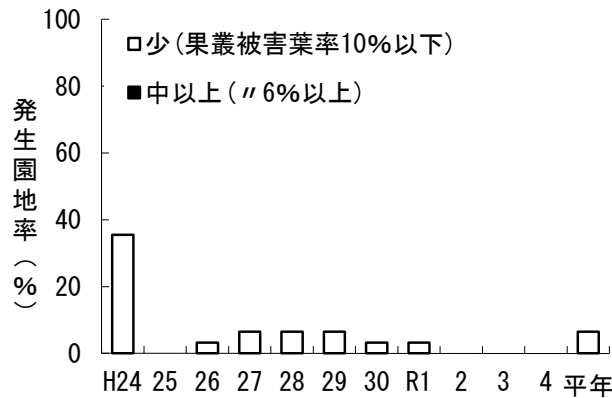


図12 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移 (5月後半)

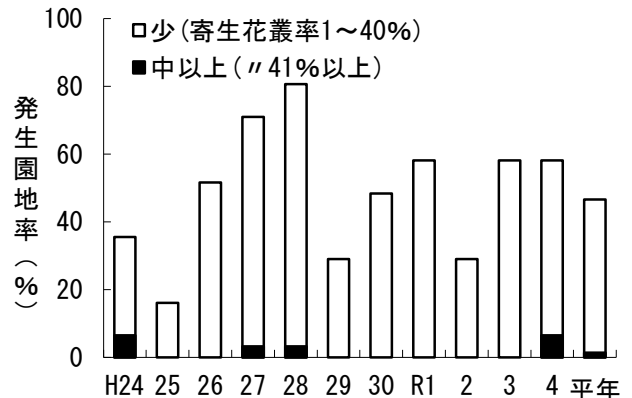


図13 アブラムシ類の発生園地率の年次推移 (5月前半)

11 ヤナギルリチョッキリ

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は25.8%（平年17.5%）で、平年並であった（図14）。

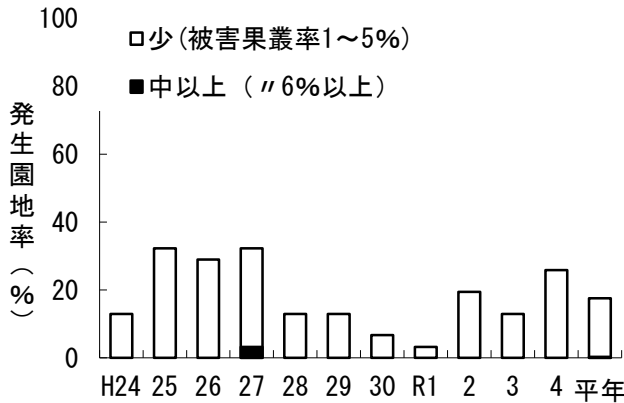


図14 ヤナギルリチョッキリの発生園地率の年次推移 (5月後半)

12 モモシンクイガ

(1) 基準圃場（北上市成田：無防除）におけるフェロモントラップには、平年よりやや早く5月第4半旬に誘殺が確認された（図省略）。

13 キンモンホソガ

(1) 基準圃場（北上市成田：無防除）におけるフェロモントラップの越冬世代の誘殺は、平年より1半旬早い4月第5半旬に羽化盛期が認められた（図15、表1）。

(2) 前年に第4世代の発生が多かった盛岡地域の現地園地（盛岡市東安庭）におけるフェロモントラップの越冬世代の誘殺は、平年より多かった（図16）。

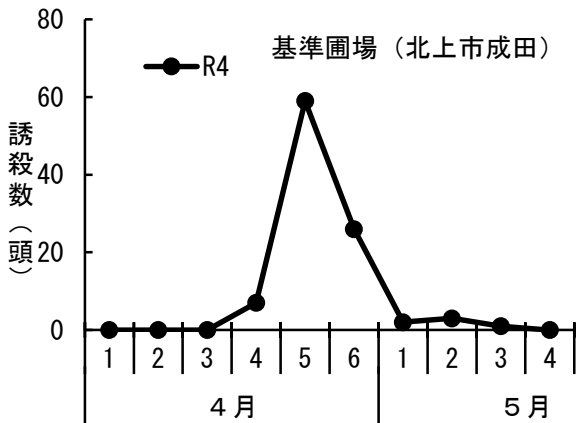


図15 基準圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況

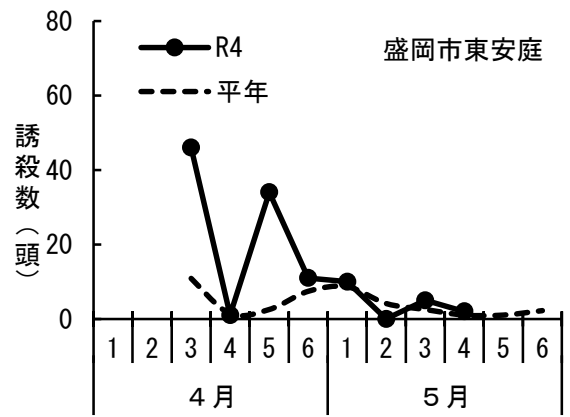


図16 現地園地におけるキンモンホソガの誘殺状況

表1 基準圃場における平年の羽化盛期

越冬世代	第1世代	第2世代	第3世代
4月第6半旬	6月第3半旬	7月第5半旬	9月第1半旬

※平年値はH24～R3の月半旬の平均より算出

14 果樹カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田：無防除）及び現地2園地（盛岡市川目、北上市更木）の集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、半旬あたり0～5頭程度であった（図17）。
- (2) 予察灯におけるクサギカメムシの誘殺は、盛岡市川目、北上市更木ともに、それぞれ5月第3半旬、5月第4半旬までは確認されていない（図18）。

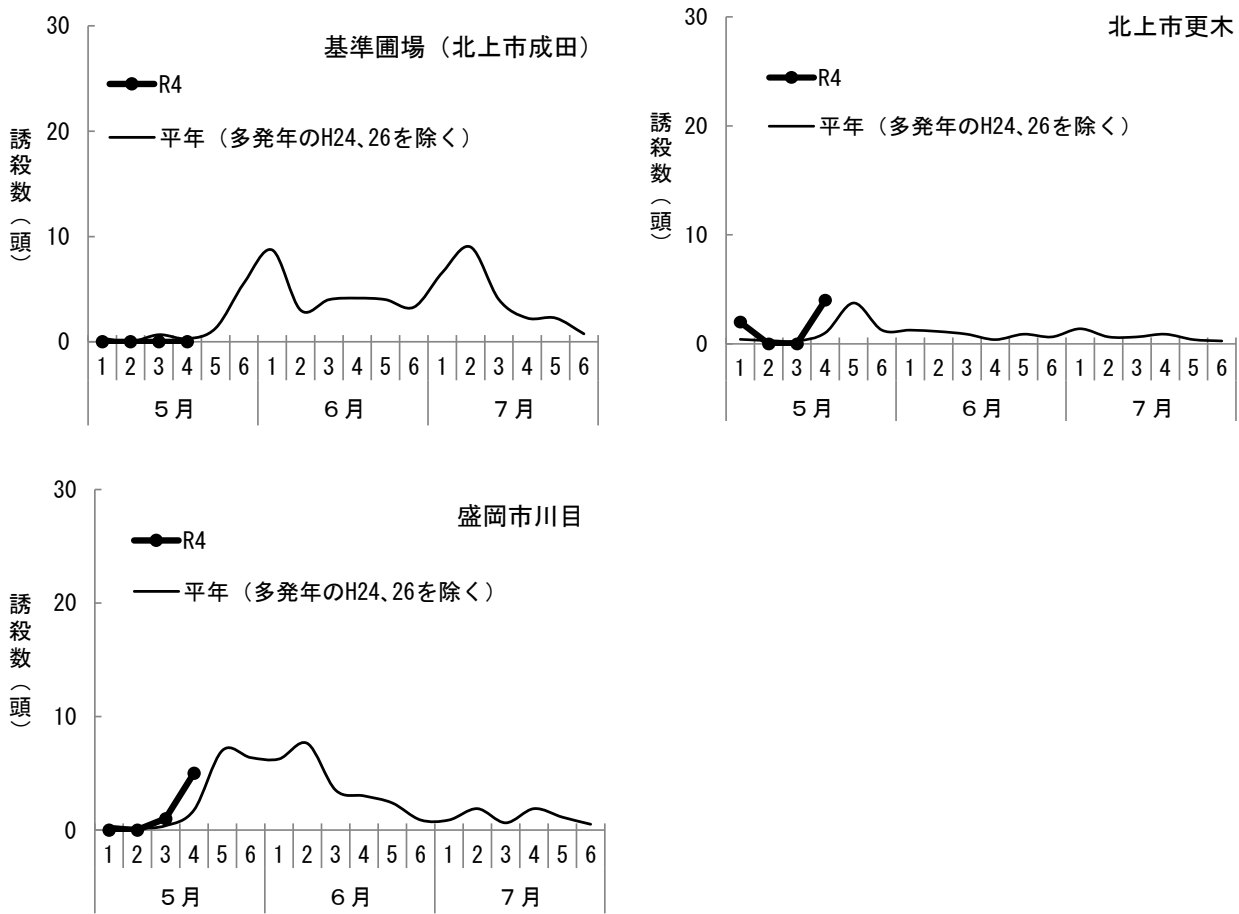


図17 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況

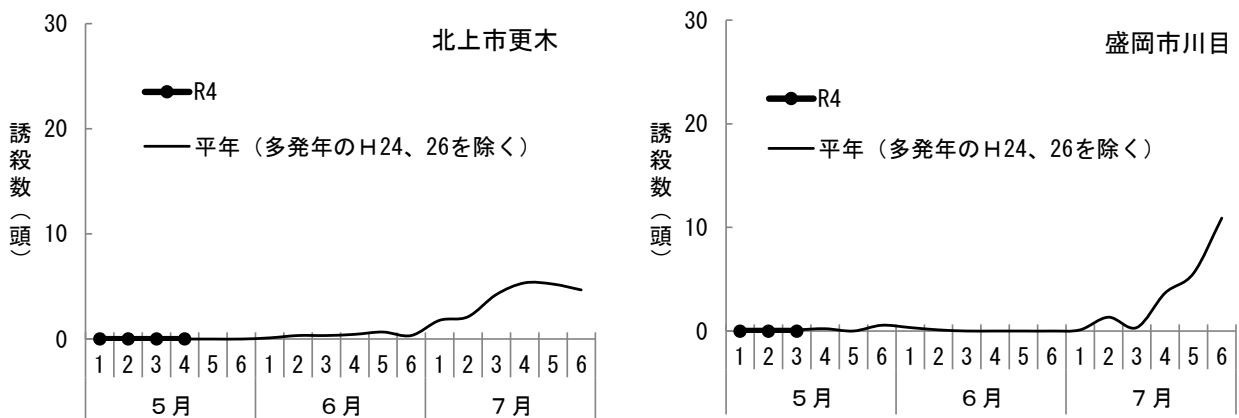


図18 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況

農作物病害虫発生現況情報（5月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、平年並の4月第1半旬から認められた（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は、平年並の4月第4半旬から認められた（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は5月第1半旬から認められた（図3）。
- (4) 5月の巡回調査では、産卵圃場は確認されなかった（平年22.9%、図4）。

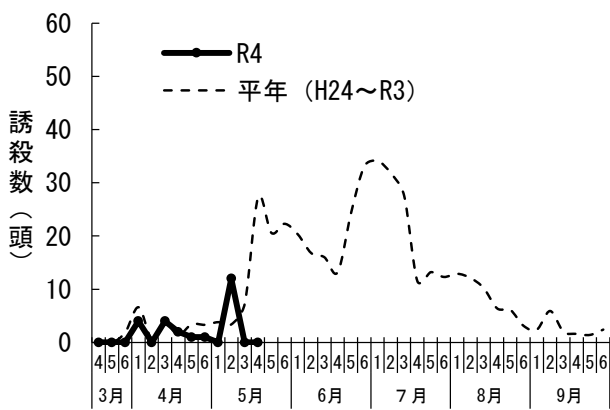


図1 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップの誘殺状況

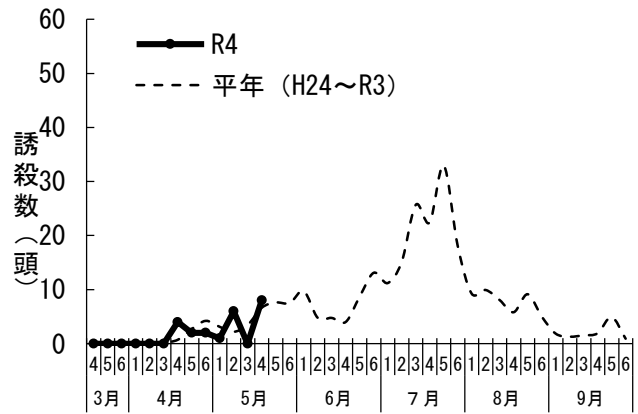


図2 軽米町におけるフェロモントラップの誘殺状況

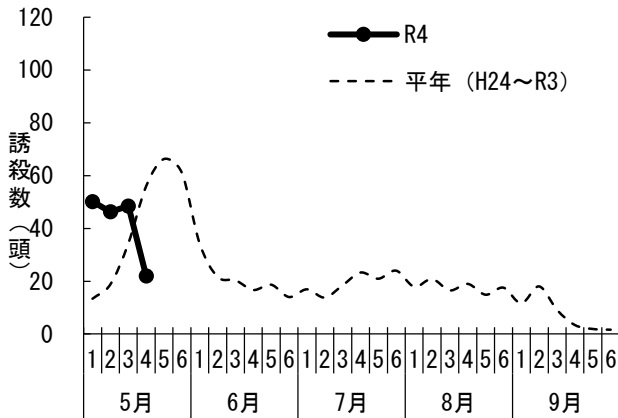
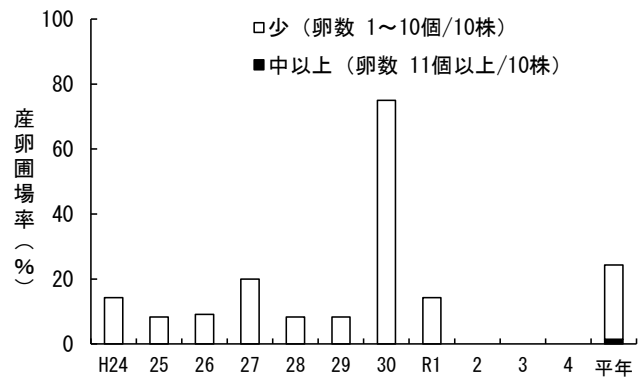


図3 岩手町におけるフェロモントラップの誘殺状況



2 モンシロチョウ

(1) 5月の巡回調査では、産卵圃場率は50.0%（平年63.2%）であり、平年よりやや低かった（図5）。

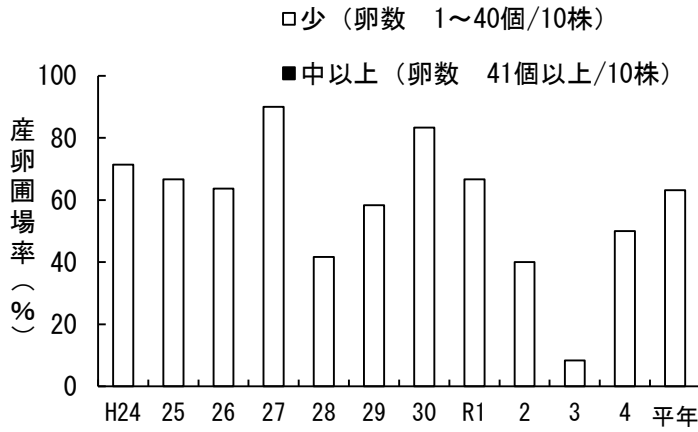


図5 モンシロチョウの産卵圃場率の年次推移
(5月中旬)

3 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第4半旬まで確認されなかった（図6）。
- (2) 基準圃場における産卵は、5月第4半旬まで確認されなかった（平年5月第6半旬）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第5半旬から確認された（図7）。
- (4) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第4半旬から確認された（図8）。
- (5) 5月の巡回調査では、産卵は確認されなかった。

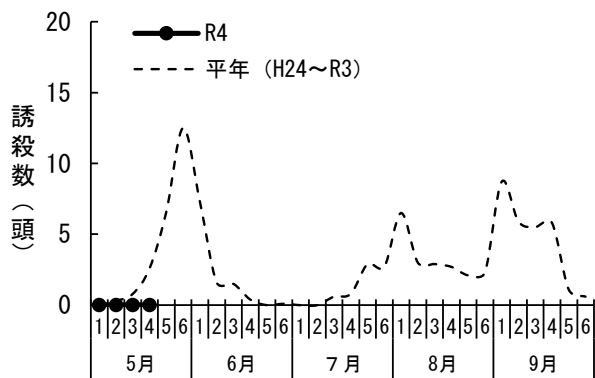


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガのフェロモントラップの誘殺状況

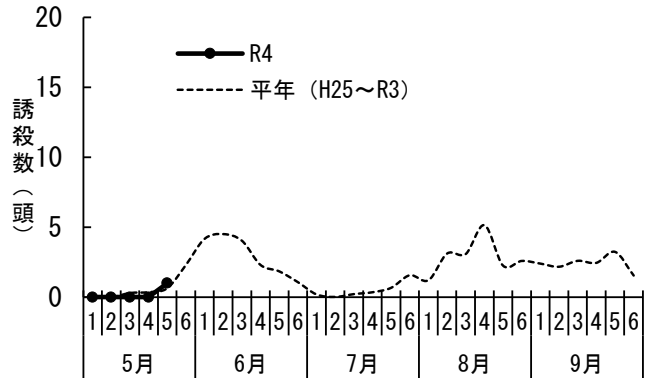


図7 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップの誘殺状況

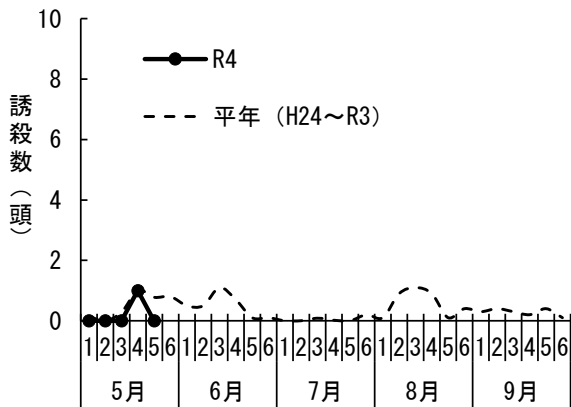


図8 軽米町におけるヨトウガのフェロモントラップの誘殺状況

4 タマナギンウワバ

- (1) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第1半旬から確認された(図9)。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は、4月第4半旬から確認された(図10)。
- (3) 5月の巡回調査では、産卵圃場率は66.6%(平年38.0%)であり、平年より高かった(図11)。
- (4) 北上市の基準圃では、5月16日から23日にかけて産卵数の増加が観察された(図12)。

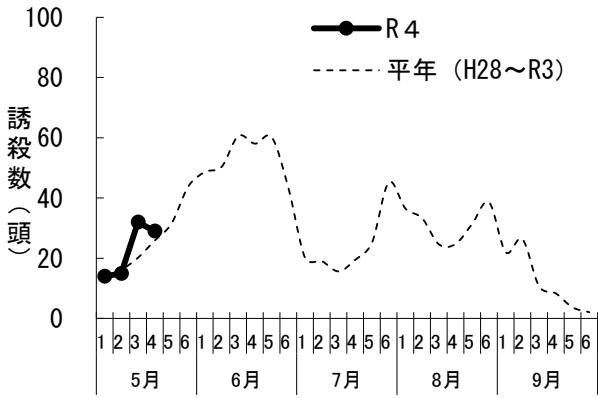


図9 岩手町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップの誘殺状況

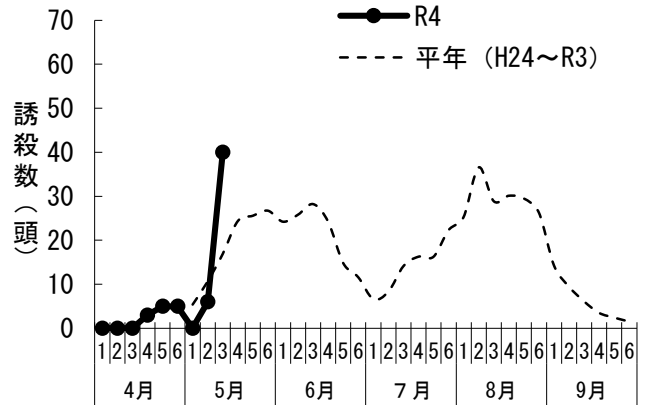


図10 軽米町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップの誘殺状況

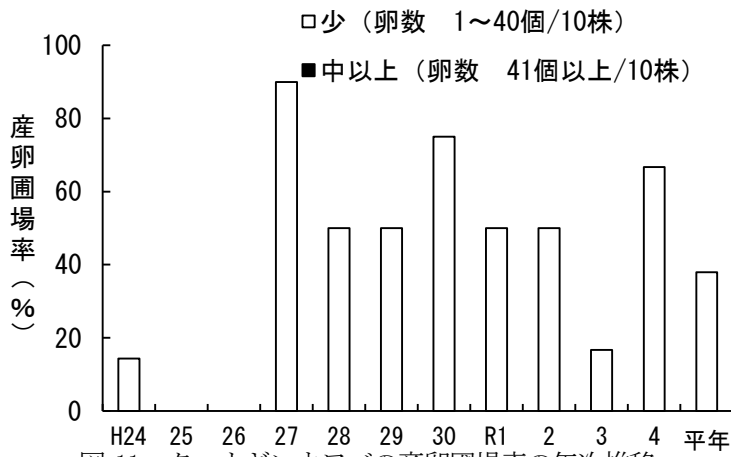


図11 タマナギンウワバの産卵圃場率の年次推移 (5月中旬)

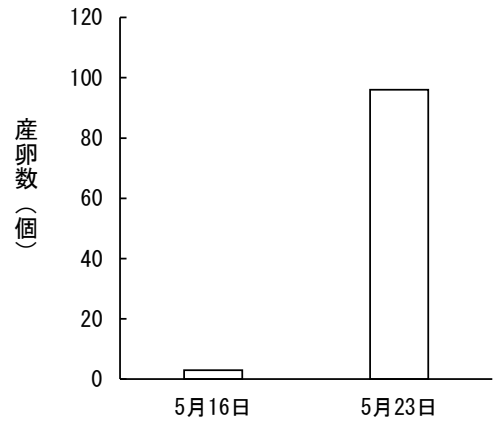


図12 北上市におけるタマナギンウワバの産卵数の推移
※調査株数30株(4月14日定植15株、5月15日定植15株)

農作物病害虫発生現況情報（5月） ねぎ編

1 さび病

(1) 5月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（図1）。

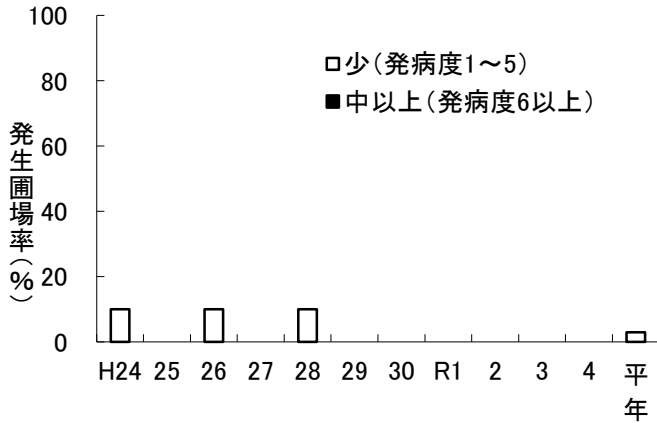


図1 さび病の発生圃場率の年次推移 (5月下旬・発病度)

2 べと病

(1) 5月下旬の巡回調査では、発生が確認されなかった。

3 ネギコガ

(1) 5月下旬の巡回調査では、発生圃場率は12.5%（平年29.1%）であり、平年よりもやや低かった（図2）。

(2) 被害葉は5月下旬に確認された（図3）。

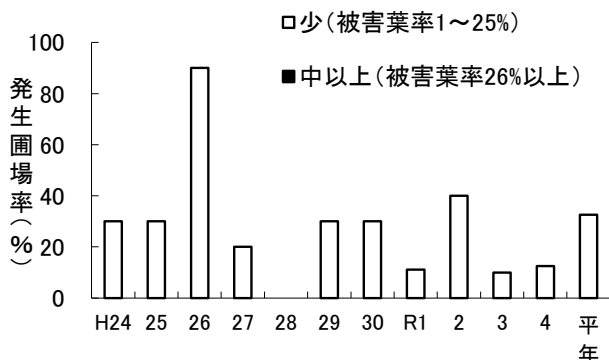


図2 ネギコガの発生圃場率の年次推移 (5月下旬)

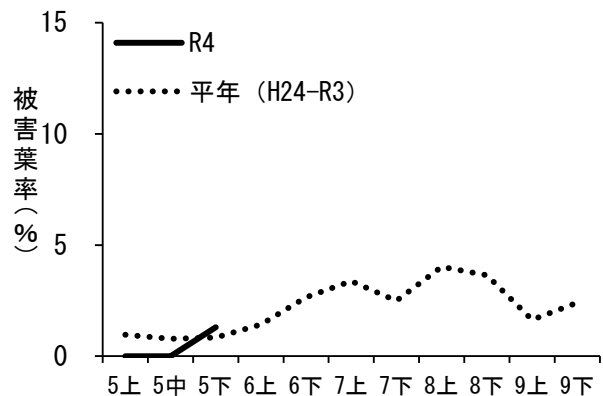


図3 ネギコガによる被害葉率の時期別推移

4 ネギハモグリバエ

(1) 5月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年12.1%）（図4、5）。

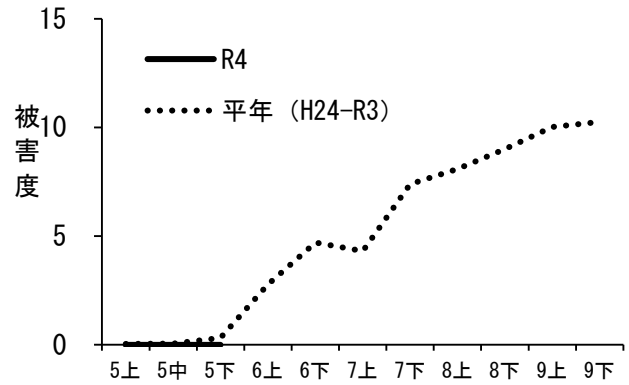
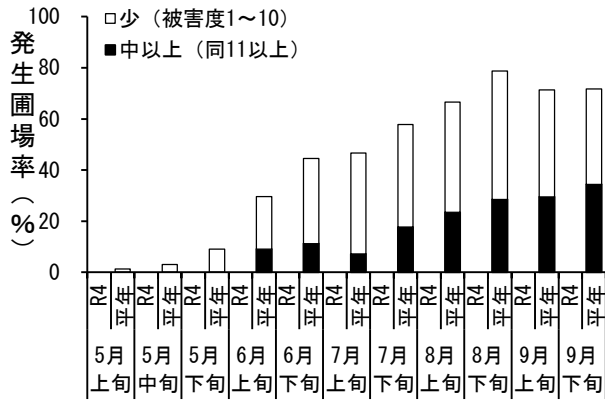


図4 ネギハモグリバエの発生圃場率の時期別推移

図5 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

【被害度】調査株の被害程度を甚・多・中・少・無の5段階で評価し、次式により算出

$$\text{被害度} = \frac{(\text{甚の株数} \times 4 + \text{多の株数} \times 3 + \text{中の株数} \times 2 + \text{少の株数})}{(\text{調査株数} \times 4)} \times 100$$

5 ネギアザミウマ

(1) 5月下旬の巡回調査では、発生圃場率は50.0%（平年60.1%）であり、平年よりもやや低かった（図6）。

(2) 5月下旬の被害度は、平年よりも低かった（図7）。

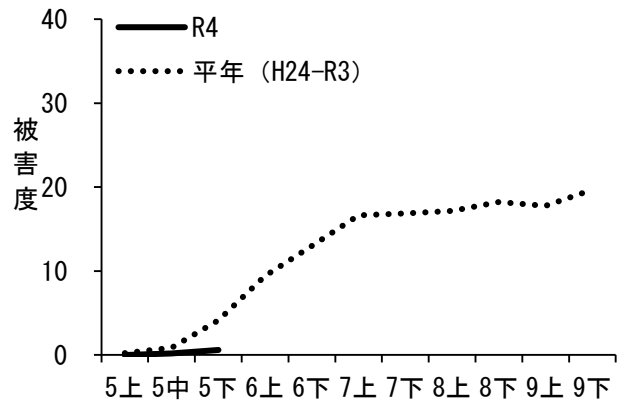
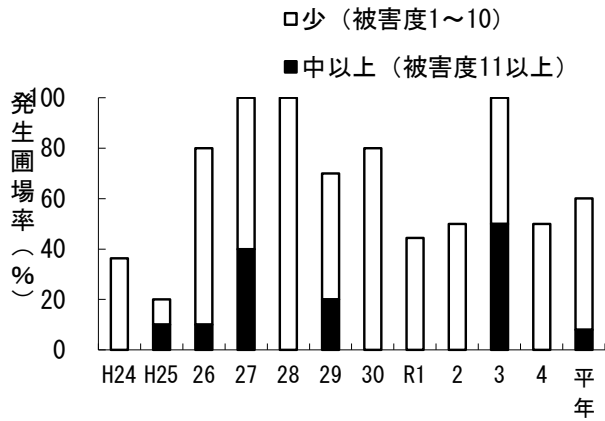


図6 ネギアザミウマの発生圃場率の時期別推移

図7 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移
※被害度の計算方法はネギハモグリバエと同様

農作物病害虫発生現況情報（5月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 5月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年2.2%、図1）。

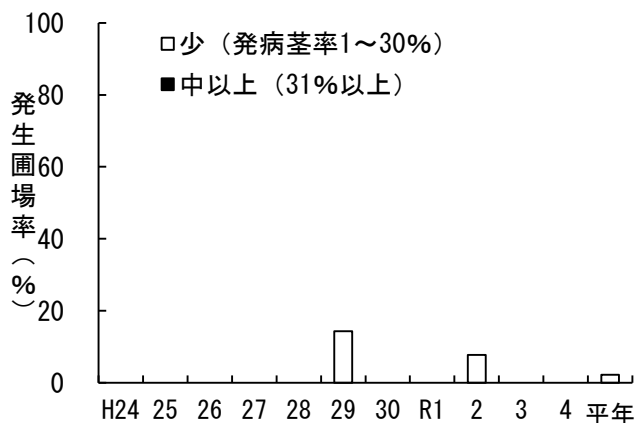


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（5月後半）

2 ハダニ類

(1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は8.3%（平年15.2%）で、平年よりやや低かった（図2）。

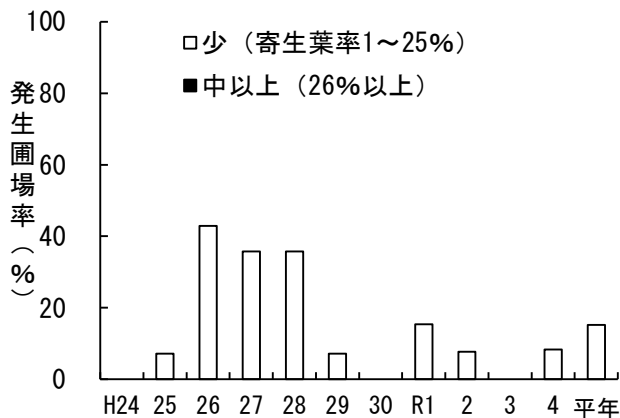


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（5月後半）

3 リンドウホソハマキ

(1) 基準圃場（北上市）では、5月第4半旬に越冬世代成虫の羽化が確認された（表1）。

(2) 巡回調査では、県北部（八幡平市安代）で5月23日に越冬世代成虫の羽化が確認された（データ省略）。

表1 基準圃場（北上市）におけるリンドウホソハマキ越冬世代成虫の初発確認日

年次	R4	平年	R3	R2	R1
確認日	5月16日	5月23日	5月18日	5月28日	5月23日